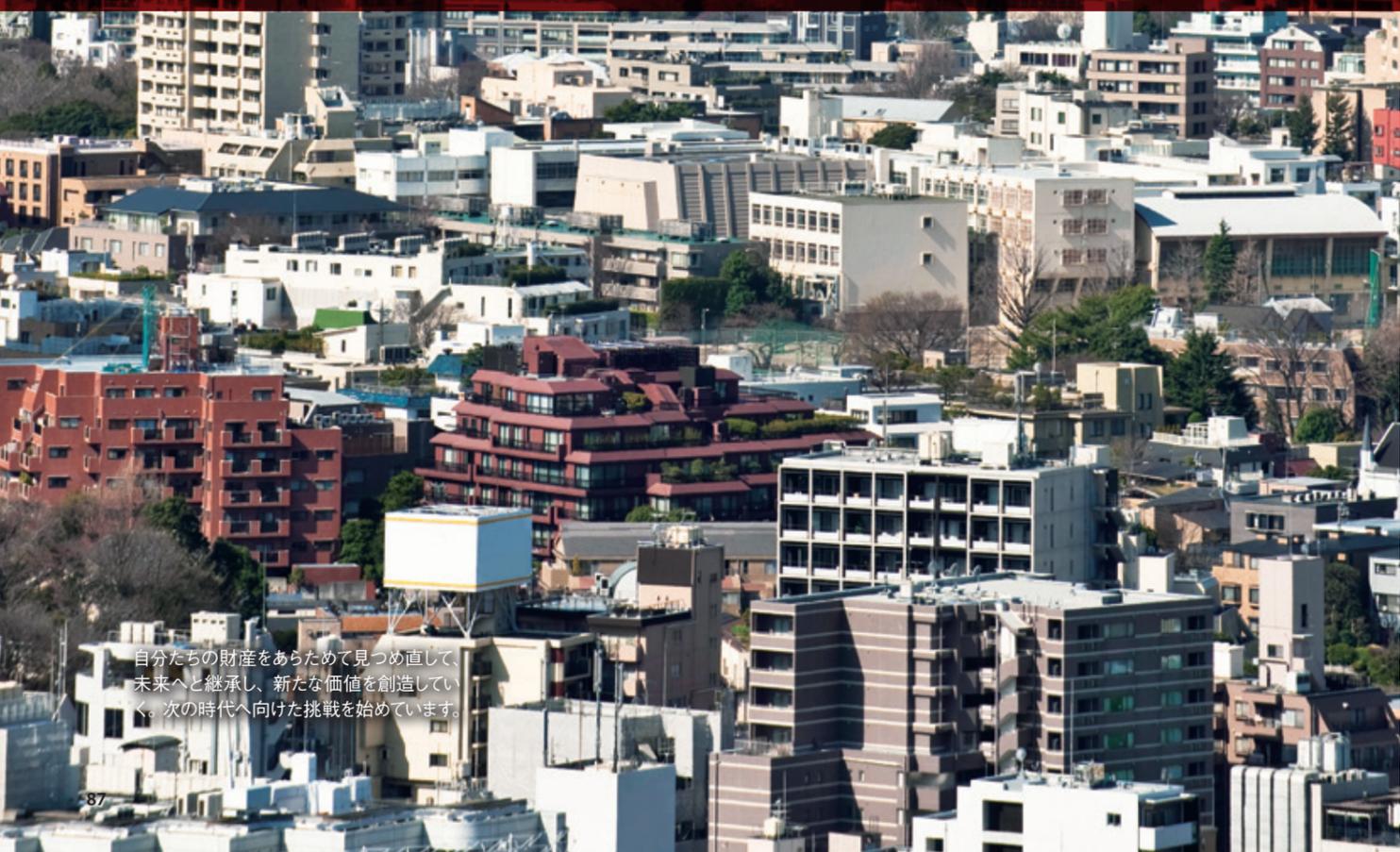




# 進化 2007-2013

～次の飛躍へ向けて～



自分たちの財産をあらためて見つめ直して、  
未来へと継承し、新たな価値を創造してい  
く。次の時代へ向けた挑戦を始めています。



「昭和会」の皆様とも結束を固めて

## ストアフロント事業シェアNo1へ

2007年10月、それまで、自らの事業運営を行いつつグループ経営にあたってきた親会社三和シャッター工業が、グループガバナンス機能、グループ戦略機能の強化を目的に、持株会社体制へと移行しました。持株会社「三和ホールディングス(株)」は、2008年3月に2008年～2010年の3ヵ年計画を発表し、その中で、「チェーン店ストック市場への取り組み強

化」「エコロジー製品など商品ラインナップ拡充」といった方針を打ち出しました。

グループの計画を受けて当社は、「ストアフロント事業シェアNo1」を掲げ、全社が一丸となって目標達成に向けた挑戦

## グローバル企業集団の一員として

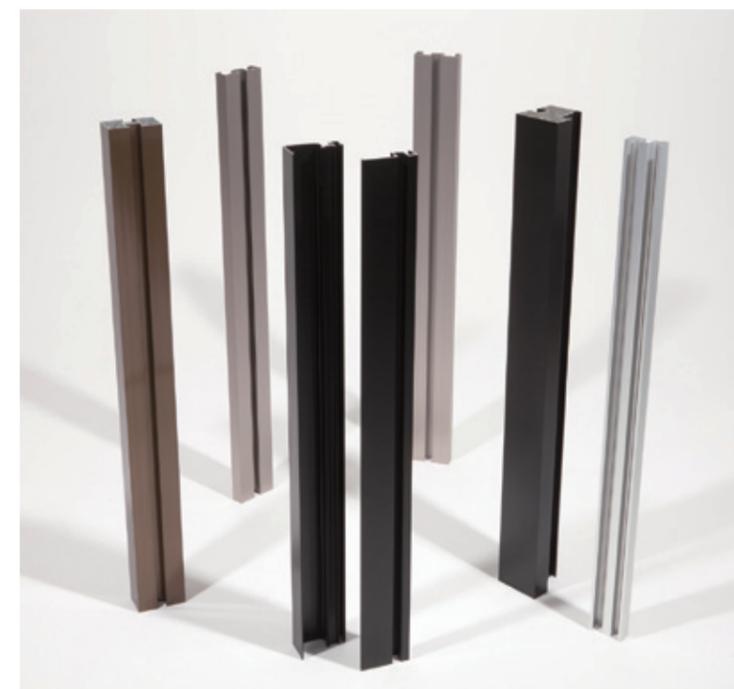
世界中のお客様に安全・安心・快適な商品とサービスを提供する企業集団としての飛躍を期す三和グループの一翼を担う存在として。昭和フロントは、自らの専門性に一層の磨きをかけ、時代のニーズを先取りした製品・サービス、事業を創出し、ストアフロントの未来を切り拓いていきます。

を始めました。営業活動の面では、三和シャッターの営業部門とも連携をとりながら、ファーストフード、コンビニエンスストア、ファッション関連など、多店舗展開するフランチャイズ企業などへ積極的に受注獲得活動を行っています。

また組織づくりの面でも、「QCD<sup>※1</sup>を中心とした構造改革」「PDCA<sup>※2</sup>レベルの向上」など、業務効率、生産性の改善に努めています。

※1 Quality (品質)、Cost (価格)、Delivery (納期)

※2 Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Act (改善) を繰り返すことによる、業務の継続的改善。



「オープンアトレス」



これからの店舗づくりのために

少子高齢化や地球温暖化が、喫緊の社会課題としてクローズアップされる中で、当社は、人と環境にやさしいストアフロントを提案しています。

人にやさしい商品として、ビル内店舗向けの横引き折りたたみ戸「オープンアトレス」(2008年)があります。デザイン性と機能性に加えて、高い安全性=指はさみ対策などを実現しています。また、スライド式自動ドアに折れ戸の機構を組み合わせた業界初の全開ドアシステム「スペースメイクF」(2009年)も、人へのやさしさが重視された商品です。飲食、ショールームなど多様な店舗に対応するだけでなく、省スペース(扉の出幅が従来の約1/2)、高い操作性(誰でも軽い力で開閉)、安全性(指挟み対策、自動ドアの誤作動検知など)を提供しています。

地球環境への配慮が込められた商品では、業界初のフロント組み込み型LEDサイン「エコレダ」(2011年)があります。LEDを活用することで、「店舗外観の魅力的な彩り」と「省エネルギー」を両立する次世代型商品です。



その他、近年の動きとしては、アルミ型材のデザイン面の可能性を大きく広げる商品「TEN-写」も開発しています。水圧転写技術により、木目調や石目調の塗装を施す「TEN-写」は、無機質なアルミに優美な表情を加えます。

MOVE the NEXT! ~次の半世紀を目指して~

アルミフロントの専門企業として培ってきた50年の実績を基盤に、当社では新たなビジネスの創出に取り組んでいます。そのひとつが、「環境エコ事業」です。ソーラーパネル組み込みのトップライト、カーテンウォールなど、環境配慮型の商品を各地の施設に提供していきます。

また、「安易に廃棄しないで、大切に長く使いたい」という志向の高まりに対応するサービス、「フロントレスキュー365」も開始しています。フロント商品をはじめ、ガラス、錠前、フロアヒンジや自動ドアおよび、他社商品を含む店舗用建具すべてのメンテナンス・サービス受付業務を365日体制で行っています。

今後も、社会がよりグローバル化し成熟していく中で、ストアフロントに対するニーズは、高度化・多様化を続けていくことでしょう。そうした環境変化に柔軟に対応しながら、当社は、販工店、流通加工店の皆様をはじめ、すべてのパートナーの皆様と手を取り合って、次なるステージへと向かっていきます。

それが、「MOVE the NEXT!」です。

「ソーラーパネル組み込み型アルミフレーム」  
バス停、駐車場、アーケードの屋根などに  
施工例が増えている。

C O L U M N

環境配慮型フロント組込サイン商品  
EcoLEDa開発ストーリー

Shine Facade

EcoLEDa



・業界初のフロント組込型LEDサインへ

2009年、当社はフロントとサインを組み合わせた新商品の開発に着手しました。開発チームでは、優れた省エネ性能で評価されるLEDに注目。「フロント組込型LEDサイン」の構想を打ち出しました。市場を見ても、コンビニをはじめとするチェーンストアの全国展開、小規模店舗のスクラップ&ビルドなどが活発化しており、新しいタイプのサインへのニーズが大いにあると考えられました。

ただしLEDにはサインの光源としての弱点がありました。蛍光灯と異なり、光量が少ないうえに直進性を持つため、均一に光を拡散できなかったのです。こうした問題をクリアするには、「導光板」と呼ばれるアクリル板が必要でした。

しかし求める導光板は、容易には見つかりませんでした。当社が目指したのは、外へも内へもビジュアルを光らせることができ、なおかつインパクトのある大きさのサインでした。ところが標準的な導光板は、片面発光で、大きさもポスター程度しかありませんでした。両面発光で、相当のサイズを持つ導光板と出会うまでに、約半年を費やしました。

導光板のめどが立った後も、発売に至るまでにはいくつもの壁がありました。「薄いスペースに配線をいかに納めるか」「アクリル板の固定に、今までガラス版を固定していた部品を使っても大丈夫か」… 未経験のサイン分野で試行錯誤を繰り返しながらも、東日本大震災に

より省エネ商品への関心が一層高まる中で、開発チームは仕上げにまい進していきました。

そして2011年9月、業界初のフロント組込型サインがEcoLEDa(エコレダ)と名づけられて市場に送り出されました。消費電力が蛍光灯の約1/3というLEDならではの省エネ性、100mmのフロント枠内に納まる驚きの薄さ、本体を取り外すことなくビジュアルが交換できる利便性…サインの概念を覆したEcoLEDaは、新しい魅力を持つフロントを求める様々な店舗や施設で採用されています。

・進化を続ける商品として

EcoLEDaの商品開発は、今もなお続いています。2013年には、既存の「フロント組込みタイプ」に加えて、ガラス溝を利用して孔あけ加工なしに取り付けられる「既設フロント後付けタイプ」、アルミフレームを隠し「ビジュアル面を大きく確保できるタイプ」を発売。もっと手軽に、しかもより意匠性を追求した形で利用いただけるように、バリエーションを拡大しました。その他、パーティションや光壁など、サイン用途以外の提案も積極的に行っています。

EcoLEDaはこれからも、業界をリードするフロント組込型サインとして、多様な可能性を探りながら、進化を続けます。